

平成28年1月

第4回白山市総合教育会議会議録

白山市

平成 27 年度 第 4 回 白山市総合教育会議

日 時 平成 28 年 1 月 14 日 (木) 午後 3 時
場 所 白山市役所 4 階 402 会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 会議事項

(1) 教育施策に係る意見交換について

(2) その他

4 閉 会

出席委員（6名）

白山市長	山 田 憲 昭
白山市教育長	松 井 肇
白山市教育長職務代理	橋 本 外 志
白山市教育委員	川 上 隆 夫
白山市教育委員	水 洞 満 子
白山市教育委員	喜 多 広 司

欠席委員（1名）

白山市教育委員	平 西 富士子
---------	---------

事務局出席職員

教育部長	松 本 一 之
図書館統括管理者・松任図書館長	森 下 豊
次長兼スポーツ課長	掛 上 正 則
教育総務課長	能 嶋 秀 信
学校教育課長	中 村 治 郎
生涯学習課長	竹 内 浩 一
文化財保護課長	高 橋 由 知
学校教育課管理主事	古 川 孝 志
教育総務課長補佐	山 田 純 一
教育総務課庶務係長	高 崎 浩 司

傍聴者 1名

開会 午後 3時00分

○教育総務課長 それでは、定刻になりましたので、これより今年度第4回目の白山市総合教育会議を開催いたします。

なお平西委員におかれましては、都合により欠席となっております。

◎市長挨拶

○教育総務課長 開会にあたりまして、山田市長から御挨拶をお願いいたします。

○市長 本日は第4回の白山市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方は新年のお忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。

また、皆様方には、平素から白山市の教育の充実、発展のために大変ご尽力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

そして今年度は、新しい教育委員会制度のもと、皆様方と一緒にになって対話をし、議論を深める場ができ、9月には「ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり」を進める指標になる「白山市教育大綱」が策定できたことは、大変意義深いことだったと思っております。

これまでの総合教育会議でも申し上げましたが、全ての市行政の根底の部分にあるのは、人づくりであります。その人づくりの一つである、子ども達の教育を考える上でも、小中学校だけではなく地域、家庭の関わりが不可欠であります。

また、私は昨年5月より、学校給食視察に、これまで小学校6校、中学校3校に伺っております。子ども達と一緒に給食を食べながら、いろいろなお話をする機会になっています。改めて、将来を担う子ども達の未来をしっかりと築く責任を感じております。

今回の会議では、今年度の教育委員としての活動の中で、日頃から考えておられる教育全般について、忌憚のないご意見などを賜りたいと思っております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○教育総務課長 ありがとうございました。これより会議事項に入りたいと思いますが、議事の進行につきましては、主宰者である市長にお願いしたいと存じます。それでは、市長よろしくお願ひいたします。

◎会議事項

○市長 それでは、早速、会議事項に入ります。

まず会議事項（1）教育施策に係る意見交換についてです。本日は、忌憚のないご意見などいろいろな面での意見交換ができればと思いますので、よろしくお願ひ致します。

◎意見交換

○市長 それでは、最初に松井教育長からお願ひします。

○教育長 それでは意見交換と言うことですので、私の方からは意見交換の材料となるような教育委員会の施策全般について、現在の取り組み状況、課題等を含めて少しお話をさせていただきたいと思います。

まず、不登校・いじめについてであります。不登校・不登校傾向につきましては、4月の第1回の会議の時に、平成27年3月で小中学校合わせて122人とお話をしました。ここ5年間では最も多いという説明をいたしました。これが平成27年度に入りまして、4月の時点では70人台とのことでしたが、毎月のように増えまして12月末には、すでに小中学校合わせまして、前年度を超えたということであります。不登校については、不登校になる原因があるわけすけども、それが一つだけではなくて複雑に絡んでいるため、解決がなかなか難しいということであります。学校としても早期対応に当たっており、担任等が保護者や本人に電話をする、あるいは家庭訪問するなどして、子ども達の学校への復帰を促していますが、一旦不登校になるとなかなか簡単には解決できない訳です。しかも担任が不登校の子に関わっていると、他の子どもへの指導、関わりが疎かになるという課題もでてきます。いじめにつきましても、早期発見、早期対応のために、私も常に校長会、教頭会でお話をさせていただいていますけれども、学校としても月1回、多い月は月2回全校生徒を対象にいじめをしたのか、されたのか、いじめられている子はいないのかといった、いじめアンケート調査を実施しております。そしていじめがあれば、いじめ対応アドバイザーを招いての対策チームによる対策会議を開き、対応に当たっております。ただ不登校にしても、いじめにしてもその対応に当たっては、学校の教職員への負担が非常に大きくなってきております。今後は、教育相談の専門家であるスクールカウンセラーとか福祉の専門家であるスクールソーシャルワ

一ヵ一、そして臨床心理士の配置が重要になってきていると思います。

次に学力調査の結果であります。4月に学力調査を実施していますが、この学力調査は、白山市合併直後に始まったわけです。始まった当初は、全国平均を下回る教科が多くあったわけですが、近年は全国平均をすべて上回っております。全国でもトップクラスにある県平均についても、かなり上回る教科があるように、相対的に学力は上がってきてていると思います。特に今回、文部科学省から市内のいくつかの小中学校の授業を視察に来られます。これはある一定の条件のもとで、学力テストの結果が非常に高かったということで、その授業内容を見に来られるわけです。これにつきましては、私は先生方の授業力の向上、授業改善の成果があったと思っております。ただ学力の高い学校がある一方で、全国平均を全教科下回っている学校があるように、学校間で差が大きいのが課題であります。今朝も12月に行われた県の評価問題テストの結果報告を受けました。市の平均よりも30点も高い学校があれば、逆に平均点よりも10点以上低い学校もあります。その差を見ますと40点以上の開きがあるわけです。県平均もさることながら、私はまず小中学校では、しっかりと学力を定着させることが最も重要であると考えています。先生方の授業力向上、学力向上策として、県教育事務所指導主事の招聘、市指導主事の派遣をしているところです。今後も引き続き、指導して参りたいと思っております。そして、この学力の低い学年、学校は総じて、生徒指導の面においても課題があると思っております。

次に、子ども達の安全安心に関してですが、学校の建物の耐震化対策では、河内小学校のみが遅れおりましたが、この学校も平成28年度をもって完成ということで、全ての小中学校で耐震化が完了します。後はそれぞれ老朽化した学校の大規模改修があるわけですが、これは建設年次に沿って順次継続的に取り組んでいきたいと思っています。また、通学路の安全に関しては、地域の皆さまのお力をお借りしているところであります。通学路については、地域からの危険箇所、例えば歩道の整備、信号の設置などの改善要望が出ているわけですが、また関係課とも協力をていきたいと思っています。それと不審者の問題ですが、不審者がよく出るわけであります。幸い他の市町のように、連れ去りという事件は本市では起きていませんが、対岸の火事と言ってはいられません。不審者等々の対応として、防犯カメラの設置についても、担当課である地域安全課から財政当局へ予算の要求をしているところです。このことについても担当課と協力してやっていきたいと思っております。

次に、インクルーシブ教育についてであります。障害者差別解消法が、この4月から施行され、障害のある子どもと障害のない子どもができるだけ同じ場でともに学ぶインクルーシブ教育がスタートするわけであります。そのための特別支援教育を確実に進めて行くことが重要になってきます。本市では、これまでも保護者の意思を最大限尊重し、障害のある子も普通学校に受け入れをしてきたところですが、さらに施設を整備し、受け入れ態勢の充実を図ることが課題と思っております。具体的には、ハード面では、まだ整備の済んでいない学校トイレの洋式化やエレベータの設置、あるいは医療的ケアとして吸痰を必要とする子どもに対する看護師の配置などが挙げられると思います。医療的ケアを必要とする子どもについては、福祉サイドから看護師を派遣してもらっておりますけれども、看護時間の延長さらには酸素ボンベの必要な子どもへの看護師の対応といった課題もあります。ほかに発達障害の子どもについては、特別支援員の配置と合わせ、幼稚園、保育園と小学校の連携を強くする必要がありますし、また発達障害の子どもの通級教室整備の課題もあります。現在4校で4つの教室に80人が通っておりますけれども、来年度の新1年生は30人余りがこの通級教室を希望しております。さらに1教室を増やす必要があります。このことについては、教師の加配ということで県教委へ要望をしているところです。さらにこういった特別支援教育に対する指導助言のため教育委員会事務局の指導主事の充実も合わせて必要かと思っております。ほかに不登校の子ども達の受け皿として、松任文化会館内に適応指導教室を設置しておりますけれども、教員免許を持つ者が少なく、設置主体の教育センターの機能強化も課題かと思っております。ほかに英語の教科化に伴う外国語指導助手（ALT）の増員、栄養職員の多忙化解消策、さらには保護者からかなり理不尽な要求があります。こういった課題については、いろいろな面で人の充実を図ることが大事かなと思っております。

そのほかに生涯学習、スポーツでは、公民館や体育施設の老朽化が大きな問題になっております。当然雨漏りといったものは、すぐに対処しなければなりませんけれども、長期的な視点でみれば、やはり改修の要、不要を判断する時期にきてていると思っておりまし、そのための改修計画を立てながら対応していくかなければならないと考えております。

また文化財につきましては、鳥越城跡の整備は来年度で終了します。横江荘遺跡は今国の指定に向けて作業を進めているところでありますし、舟岡山城跡についても国遺跡指定に向け遺跡の範囲と内容を確認する調査を29年度まで続け、その後公園担当課で

公園整備に向け県との協議を進めて行くことになります。以上、私の方から教育委員会の課題等々について少し説明をさせていただきました。

○市長 ありがとうございました。それでは、橋本教育長職務代理、お願ひいたします。

○橋本教育長職務代理 今年度は、白山市総合教育会議及び教育大綱策定元年にあたり、その趣旨が少しでも実行に移されることを願って、大きく5点を述べたいと思います。

第1点目は、教育総務課関係です。これは3つあります。1つは、小中学校の大規模改造や校舎改修、体育館建設、エアコン設置事業が挙げられています。厳しい財政状況の中ですが、児童生徒が豊かな教育環境で学べることは、保護者、地域、市民全体の願いであり、中期計画に基づいて円滑な事業実施を望むものであります。2つ目は、市内3校の高等学校学力向上支援事業は新規ですが、市内の高校普通科において、しっかりと学力を伸ばし大学を目指せる教育環境づくりを支援することは、本市の人材育成にもつながり、その効果を大いに期待するところです。3つ目は、松任中学校プールフルシーズン対応化事業です。松任中学校は従来から、水球が盛んで高い競技力を有し、全国の強豪の1つに数えられています。プールの温水化、地域開放、通年利用の方向では、かなりの工事費が必要になると聞きます。それよりも学校プールとして、温水化するなどして水球にも使えるようにすれば、事業費も軽減でき、すぐ使えるという面で学校や中体連の要望にも沿うことになるのではないかと思います。

大きな2点目は、学校教育課関係です。ほとんど人員増の要望をしていますが、私も同感であります。年2回の学校訪問時に授業参観をし、校長先生との懇談を通じて感ずることは、4点あります。1点目は、発達障害児を含め、特に支援を要する子どもが各学級に存在している。2点目には、複雑な家庭環境と深刻な貧困化が子どもの学習に及ぼす影響。3点目には、学校不適用児童生徒の存在と相談数の増加。4点目には、一部教職員の健康状態不良と親の介護等の問題であります。現在、教育センター相談員は、小学校にはいませんし、臨床心理士も専属の方が不在、スクールソーシャルワーカーの配置もまだと聞いております。しかし、現在中教審の審議の中でも、チームとしての学校像を念頭において、教職員の多様な人材が、それぞれの専門性を活かして能力を發揮するというチームとしての学校像が論議されています。今後学校現場では、学校と複雑な家庭との溝を埋め、連携を図る専門家の存在は、不可欠になるように思います。また特別支援教育支援員は、非常勤で45名が配置されておりますが、特に元気のいい小学校中学年では、支援を要する児童の対応に担任だけではなかなか対応が難しい。授業規

律や落ち着いた学級の雰囲気を保つために、支援員の果たす役割はますます大きくなっているように感じます。まず、サポーター派遣事業は、肢体不自由児が児童生徒の行事等への一時的なサポートと聞いております。5月に某中学校の肢体不自由学級の授業参観をした時に、先生も支援員の方も職務とはいえ大変ご苦労されている様子を拝見いたしましたし、本当に頭の下がる思いがいたしました。修学旅行や宿泊行事にサポーターの方も来ていただけるとなれば、保護者も学校も子どもも喜ぶでしょうし、いつまでもその思い出は心に残るものと思います。教育はある意味子どもが将来、前を向いていける自信につながる思い出や宝物をたくさん体験させることとも言えるかと思います。また外国語指導助手配置事業ですが、新しい学習指導要領では、小学校3～4年生の外国語が週に1コマ、また5～6年生では2コマ予定されています。本市としてもぜひ先取りをして、外国語指導助手を配置して外国語教育、英語教育の指導をしていくべきであろうと考えます。新規のストレスチェック調査ですが、学校訪問時に心身の不安定な教職員の存在や夜遅くまで勤務している状況があることを聞きます。教職員自らの健康管理を一層意識させる観点からも時代の流れに沿った理にかなった事業と考えます。また指導主事の1名増員要望は、別枠と聞いておりますが、教育現場の課題が山積する中、より一層学力向上、指導力向上と特別支援教育の充実を図るには、現状の仕事量を考えるとやはり人的増が欠かせないものと思います。

3点目は、生涯学習課関係です。1つは、公民館の建設、改修等ですが、地域住民の文化スポーツ活動、地域コミュニティ形成の拠点となる重要な施設であります。市長さんも公民館単位で、地域活性化事業の展開を期待されるとお聞きをします。これまた財政状況厳しい折ですが、中期計画に沿った円滑な事業の推進を願うものであります。2つ目は、生涯学習課で新規の生涯学習提供事業が2つ出ておりますが、郷土の文化資源の掘り起こしやジオパークへの理解を深める機会につながるものと期待しております。3つ目は、文化会館等の実施設計委託や青少年育成センター統合事業にも関心を持っております。この点については、後ほど時間があれば触れたいと思います。

4点目は、子ども相談室と文化財保護課関係です。子ども相談室関係は、予算額が明示されていませんが、1つは広報活動の充実。2つは、保育園、幼稚園、小中学校、児童館、特別支援学級への巡回訪問と連携。3つ目は、全国レベルや他の先進的自治体の情報収集等を通じて昨年よりも一歩高いレベルの活動が展開できるよう予算面で格段のご配慮をお願いするものです。次に文化財保護課関係ですが、1つは文化財保護事業や

史跡調査、保存事業の中に、新規のものも含まれていますが、教育大綱の1番目に掲げてある「郷土愛を育む教育の推進」の観点からも、児童生徒が古くからふるさとに伝承されてきた文化に触れ親しむことにより、白山市に誇りが持てるようになることを願うものであります。したがって、市内各地区に残る文化財の維持管理調査事業は重要であります。2つ目は、史跡調査保存事業等に格段のご配慮をお願いするものであります。地元のことにつれて大変恐縮ですが、老朽化が進んで破損が激しい鳥越城跡の環境整備事業にもご配慮を期待するものであります。

5点目は、スポーツ課関係です。1つ目は、体育施設改修事業ですが、老朽化が進んでいますので、多額の事業費がかかるけれどもお願い致します。2つ目は、2つの新規事業ですが、東京五輪開催に向けて合宿の誘致に関わる審査員招聘やプロスポーツ選手による指導機会の提供は、次代を担う子ども達や若者に夢や希望を与えるものと思います。その実現を大いに期待するものです。

その他松任図書館、美川図書館、鶴来図書館関係ですが、昨年度の事業評価を踏まえての予算要求と承知しております。1つ目は、小中学校での顕著な読書環境の充実が、市内の図書館にも及ぶことを期待しています。特に鶴来図書館の受付業務の環境改善や公用車更新も重要な項目だと思います。2つ目、現有職員の確保は切実なものと考え、格段のご配慮を望むものです。美川図書館の入館者10万人達成記念事業ですが、大変おめでたいことですので、記念セレモニーにふさわしく、もう少し内容を煮詰めても良いのではないかと考えます。以上、意のあるところをお汲み取りいただきまして、今年は参加と対話をモットーの市長さんの手による真心のこもった山田市長のカラーが表れた予算編成であります。地域創生は人づくり、人づくりは教育から、市長さんの寛容なるお心で教育委員会予算が総合教育会議元年にふさわしいものになりますよう心からお願いをいたしまして、私の意見をいたします。

○市長 ありがとうございました。それでは、川上委員、お願ひ致します。

○川上委員 私からは、私の思いといいますか、日頃思っていることをお話させていただきます。市長さんのお話の中にもありましたように、やはり白山市の発展は人づくりです。従って、少子化の時代を迎え、子ども達の育成は大切です。そういうことを踏まえて、私は、学校教育で、子ども達に「生きる力」を与えるているかどうか、「知・徳・体」について、合併当初から今日までを振り返ってみました。

まず、「知」については、平成19年から平成27年までの全国学力テストの結果を

調べてみました。全国学力テストというのは国語A、Bと算数（数学）A、B、今年は理科が追加されましたが、これで学力のすべてということは言えないと思います。しかし、国語、算数（数学）は教科の中心ですから、学力の1つの指標になるのではないかと判断して調べてみました。

松井教育長の話にもありましたように、総じて、白山市の子ども達の学力は上がっているというのは、このグラフ（川上委員作成）を見てもはっきりしていると思います。白山市の平均と石川県の平均との比較は、石川県の平均が5番であったり10番であったり、今年度は全国で2番の好成績なので、比較がブレることになります。それで、私は過去のデータを、全国平均と比較してみました。全国平均と言うのは、日本全体の子ども達の平均値ですので、それと比較してみればより明白かと思いプロットしてみました。この赤線は小学校6年生、黒線が中学3年生です。国語A、B、算数（数学）A、Bの4教科、今年度は理科が入っていますから、5教科の合計を全国平均と比較すると、平成19年の小学生は2.8ポイント下回っていますが、今年度は、24.5ポイントも全国平均を上回っています。しかも、平成19年以降、今年度まで右肩上がりで推移しているので、小学生は非常に良い傾向です。石川県平均との比較では、何か悪いように見えますが、全校平均と比較しますと、右肩上がりで順調に伸びてきていることがわかります。尚。小学生は、昨年度、石川県平均を上回っております。

中学生については、全国平均に比べてバラつきがありますが、平成19年からすべての年において全国平均を上回っています。最近の5年間で見てみると、5年間の内4年間は石川県平均を上回っているので、小学生で付いた学力が、中学校に進んでも発揮できていると判断しています。

従いまして、平成28年度についていろいろとお話を出ていますが、教職員の研修では、白山学を中心に学校の中でのOJT、それから今回の予算要求にもありますが白山市独自にやっている学年別の学力テスト、小学校1年生から3年生の漢字テストであるとか中学校1年生の英語テストは成果が出ているのではないかと感じています。先ほど教育長から、全国平均を下回る学校もあるという話もありましたが、今後については、過去の施策をベースに足りない部分を少しづつ是正していくべきではないかと思います。これらは「知」の部分ですが、「徳・体」の部分は何で見るかということです。非常に難しいのですが、「徳」については、学校訪問をしていくと、年々子ども達の挨拶、礼儀が素直に自然にできているし、育っているなど感じています。校長先生との

話の中で、全国体力テストの結果をお聞きしたら、「ボール投げなど体力は上がってきている」と聞いています。何か指標になるものがないかと思って、スポーツ課から出してもらった過去の白山市スポーツ賞の小中学生の受賞者数の推移で見てみました。スポーツ賞の対象は、全国大会以上出場と県大会優勝の人で、平成20年度からのデータで見ると、平成20年度が203人、21年度が204人、22年度が232人、23年度が247人、24年度が276人、25年度が318人、26年度が242人です。これは団体競技での受賞者も含まれていますから、一概に種目数で伸びているのかは分かりませんが、それにしても大きな大会に出て、そしてスポーツ賞の表彰を受けているという自信が、子ども達の教育に効果があるのではないかと感じています。なぜスポーツ賞が「徳・体」の指標になるかということですが、スポーツをやっていますと、礼儀とかマナーが身に付き、もちろん体力も向上します。そういうことから判断して、「徳・体」も伸びていると思います。中学生だけで見てみると、過去3年間の平均で、168人が受賞しています。168人と言うのは、市内全中学生の4.7%、約20人に1人の中学生が全国大会以上出場または県大会で優勝していることになります。小松、金沢の実績は分かりませんが、20人に1人の中学生がスポーツ賞を受けているということは、「徳・体」の部分でも向上しているのではないかと感じております。従いまして、中学校の部活顧問の先生は、非常に多忙な中で、指導をされていると思いますが、こういう数字を見ると、もっともっと受賞者を増やして欲しいし、各種大会に出る生徒を増やして欲しいなと感じております。

こういう結果を参考に、白山市の今後に向けて、私が注目したところは、1つ目は、高齢化時代を迎えた生涯学習の場として、また、市役所の分室的な役割としての公民館の役割が非常に大事だと感じています。一昨日の晩、湊公民館で新しい事業として団塊の世代活性化事業の一つとして、麻雀大会開催の打合せがありましたので、参加してきました。今後も、公民館行事に協力していきたいと思っています。ハード、ソフト面でお金の掛かる話ではありますが、やはり今からの公民館は白山市の中で、地域を盛り上げる役割として重要ではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。2つ目は、広域合併したために、スポーツ施設が非常に分散しているのではないかと感じています。全体像は分かりませんが、テニスコートだけを見てみると、白山市には、県のものも含め、白山市が維持管理しているテニスコートが12~13ヶ所に点在しています。それらは全て、1ヶ所に1面~6面と、面数の少ないコートばかりです。

白山市、野々市市の中学校の大会をするにしても、県レベル以上の大会をするにしても 1 つの会場でできないという問題があります。お金の掛かる話ではありますが、中期計画のさらに上の長期計画になるかもしれません、今後 10 年くらいを目途に少し集約できないでしょうか。そうすれば、中学校の部活顧問の先生は、男女 2ヶ所に分かれで行かなくても 1ヶ所で面倒を見られるし、大きな大会も 1ヶ所で開催できます。

ちなみに小松市では、昨年、一昨年に 6 面を増築して 14 面、七尾市は昨年、1ヶ所に 24 面のテニスコートを造りました。そういうことから、テニスコートに限らず、中期計画の中にあります体育施設の整備を、今後見直していただきたいと感じております。

当初予算関連では、1つ目は児童数の多い蕪城小学校は、ランチルームまで体育の授業に使っていきますので、第二体育館の建設は不可欠です。それから 2 つ目は、国、県が対象としていない学力テストの委託料です。具体的な細かい内容は分かりませんが、白山市が他市と差別化を図っていくには、今までやっている独自のテストにプラスすることだと思いますので、学力テストの委託料もお願いしたいと感じています。残る 2 つは橋本教育長職務代理の要望と合致するのですが、どこの学校を回っていても、クラスの中に特別支援を要する子ども達が数多くいます。そのため、先生が指導の面で非常に手を掛けています。予算的な面もありますので、一挙に増やせないとは思いますが、財政全般の中で予算化しながら何名かずつでも支援員を増やしていただければ、さらに学力も向上していくのではないかと思っています。併せて、支援員の有効性を高めるうえで、支援員の支援方法が有効であるかの検証とか、支援員の研修や OJT も必要ではないかと思います。それと外国語指導助手ですが、日本人は外国人とコミュニケーションを取るのが、下手だと聞きます。学校で、子ども達が外国の方に親しみ、素直に勉強している姿を見ると、もう少し指導助手がいてもいいかなと思います。今後の国際化時代と、小学校で英語が教科化されることを踏まえ、英語教育の充実のために英語指導助手の増員もお願いをしたいと感じています。

○市長 ありがとうございました。それでは、水洞委員、お願い致します。

○水洞委員 昨年の 11 月 4 日から 6 日まで教育委員行政視察に行ってきました。福岡市の「こども総合相談センター」通称「えがお館」が非常に印象に残りました。この施設ができるまで、福岡市では子どもの問題について、市民からどこに相談してよいのかわからないとか、問い合わせをしてもこの課は違うというようにたらい回し感があったようなのですが、児童相談所、教育委員会教育相談課、県警少年サポートセンターと同じ

フロアーにして、窓口の電話番号を1つにしたことで、迅速な支援ができるようになつたようです。不登校の適用指導教室も充実しており、対応が早くなることで不登校の子どもの学校への復帰も早くなる例もあり、学校ともうまく連携しているのです。本当に勉強になりました。大きな市だからできるのかもしれません、窓口の電話番号を1つにするとか、迅速に対応するということは白山市でもできるのではないかと思いました。白山市の学校で、当たり前のことが当たり前に行われていない場合もあるようです。いじめ不登校に対して、未然防止、早期発見、早期対応と言っていながら、残念な対応を聞いたりします。学力向上も大切ですが、白山市全ての小学校、中学校で、いじめ不登校への誠実な対応をお願いしたいと思います。私の家の上の子が中学生の時に、2年生と3年生の担任の先生は同じ女性の方だったのですが、実際にタイムリーに子どもに声を掛けて下さって、いろんな事を乗り越えた経験があります。今でも、私も子どもその先生が大好きです。そういう先生が、増えてほしいと思います。白山市の松任文化会館にある教育センターが、福岡市のえがお館に当たるのではないかと思います。どういう立場の方かはわかりませんが、白山市の教育センターにA先生という方がいらっしゃいます。以前は鶴来分室にいらっしゃったので、児童生徒、保護者に何かあった時にはすぐに相談をしていました。対応が適切で、悩んでいる子どもや保護者に寄り添う姿勢にいつも頭が下がりました。その対応に、私も勉強になりました。すごく信頼をしていまして、何かあればこの人に相談すれば、うまく対応してもらえるという信頼感がありますので、何組か紹介しました。どれもこれも複雑な事情を抱えているのですが、粘り強く根気強く対応していただき感謝の気持ちでいっぱいです。教育センター相談員の増員とあります。現在適応教室の入室生が20名を超えているのでしょうか。相談員の方の人数が増えればいいというわけではないと思います。A先生のような方が増えてほしいなと思います。

話は変わりますが、視察に行って思うのですが、白山市の小学校も中学校も施設は、十二分にすばらしいと思います。白山市の学校図書館も司書の先生が配置されるまでは、本当にカビ臭くてほこり臭い倉庫のような感じでした。今のような学校図書館が当たり前にあるのではなく、図書館司書や先生方の努力で今のようなすばらしい学校図書館が存在していると思います。これは本当に白山市が誇れることだと思いました。以上です。

○市長 ありがとうございました。それでは、喜多委員、お願ひ致します。

○喜多委員 それでは、日頃の思いを述べさせていただきます。主に学校の設備、それと

学校の様子等について、感じたことを少し述べさせていただきたいと思います。まず学校の施設につきました今ほど水洞委員からもお話をありましたとおり、順次中期的に計画をされ整備がなされているということで、どこにも負けない小中学校の校舎になっていると思います。今後とも中期計画どおり推進、遂行していただきたいと思います。また子どもの安全面、あるいは発達障害等の子どもと一緒に授業をする場合に改修などが必要であるとすれば、迅速な対応をしていただきたいと思います。次に、学校の雰囲気と言いますか、教職員の話です。前期後期と学校訪問で各小中学校を回らせていただいております。全般的には各学校とも、校長先生をリーダーとして各部会が横断的縦断的に有効に機能しているのではないかという印象を受けております。先生方一人一人が生き生きと元気に子ども達と向き合う、そして授業に取り組んでいる様子が伺えたのではないかと思います。そんな中で支援員の増員など人の面での充実も年次的に増員もいただきながら充実が図られていると思いますし、今後もさらに効果的な増員を目指していただければと思います。今日の新聞にも載っていましたけれども、教職員の精神疾患が増加しているとのことです。学校を回っておりますと、先生方に繁忙感があり結構遅くまで残っている先生も何人もおられる。そういう中で、何らかの形で心の繁忙感も少し取り除いてやれるように検討をしてもらえばいいなと考えています。いじめ不登校の対応につきましては、私共が伺って目が届く範囲においては、いじめについては日頃から子ども達の様子をきめ細かな意識と毎月のアンケートなどで情報を得ながら早期対応をする。場合によっては、組織的に対応していることが伺えます。あと不登校につきましても、1日2日休んだ時にも早期対応をする。一人ひとり寄り添いながら解決していこうという前向きな取り組みが見えます。これらについては、一人の先生が抱えることなく、組織的に対応をしていただきたいと思います。日頃、感じているところは、以上です。

○市長 ありがとうございました。それでは5人の皆様方の思いをお聞かせいただきました。まだ私の新年度予算の査定は済んでいないですが、今日の話を聞いていると、査定をするのが大変だなと思いました。いじめと不登校は、ちょっと違う。不登校は現象に現れるからわかるが、いじめは表面に出ないからどういうケアをすればいいのか。いじめは、起こってしまってからでは遅い。まず聞いてやれるような雰囲気づくりがあるともっといいのだろうと思います。

1つ聞いてもいいですか。学校の先生がすごく忙しいというが、何がそんなに忙しく

なったのですか。

○中村学校教育課長　自分も何十年と教員として教育現場にいました。以前よりも最近は、多忙感が大きいと正直思います。ただ文科省のアンケートによると、一番忙しいのは調査物になっていますが、実感としては県教委、市教委からの調査物については、担当が忙しいのは事実ですが、多くの教員についての一番は必ずしも調査物ではないような気がします。実際には、学力向上対策のこと、多様な生徒指導に関わること、保護者の多様な要求に対する対応など、時間的にもですが、精神的にも疲労感を感じる教員も実際に多いというのが現状です。

○橋本教育長職務代理　児童生徒あるいは保護者に対する対応が複雑化していると感じます。背景に学校に対する保護者の要望の多様化、支援を要する子どもの増加があると思います。その対応に疲れているのではないでどうか。今ほどの学校教育課長の話にもあったように、事務量よりも、むしろ子どもや保護者との対人関係がしっかりとしているかどうか。そこに信頼感や充実感があれば、多少の事務的なものや指導面での困難な部分もこなせると思います。子どもや保護者との信頼関係が一旦崩れると、精神的にも辛いですし、修復するために多くのエネルギーを費やし、余計多忙感を感じるところがあるのではないかという気がします。

○市長　学校の先生は手を出せないということを子どもは知っている。学校の先生ではない部外者が学校にいてにらみをきかすと恐ろしさを知る。やはり昔は、恐ろしい人が来ると静かになった。学校の先生側でやるのは無理なのはわかっているので、別のやり方でやる。PTAなどから来てもらう制度がないか。県は、問題のあった学校には派遣しているだろう。

○中村学校教育課長　県には生徒指導サポーター、いきいきサポーターという制度があります。白山市にも何人も派遣していただいている。

○市長　そのような人達だと指導の仕方は違うのか。やっぱり同じか。学校教育の範疇の中でやっているのか。

○中村学校教育課長　基本的には同じです。今、市長が言われたような外部の目ということも、一つの大きな意味があることだと思います。一方で、授業中に歩き回ったり、その他いろいろ問題行動を起こす子どもの中には、外部の目があろうがなかろうが、なかなか指導が難しいこともあるのが現実です。

○市長　現状でできることをどう救うか、救ってやれるのか。保護者に対して一言一言

に気を使っているようではどうにもならない。

○松井教育長 今言われたように、生徒指導の関係ではいきいきサポーターといった人たちの協力が大事ですけど、対保護者になってくるとこの方々がやるのではなくて、学校の先生方が対応をしています。

○市長 少し荒っぽい言い方かもしれません、学校でいろいろな問題があつたときに、警察を入れてもいいことになっている。私は躊躇しなくていいと思っています。極端なことを言えば、悪い子がいるからではなくて、悪い子にならないように警察官が回ってくれればいいのかもしれない。悪い子にならない方法を考えればいいのではないかと思います。そういうことをやっていかないと教室がしまらない。学校施設はどこにも負けないくらい、いい施設になっています。

市内には、3つの高校があり、先日校長先生3人に来ていただき、教育長も入れてどんな問題があるのか、また各高校には振興会もあるので連携を取って、できるだけ地域の子ども達は地域で受け入れる体制が取れないかという投げかけはしてみました。できれば、そういう連携が取れればいいと思う。

障害者差別解消法が4月から施行されることになるが、対応しないといけないことがどれだけあるのか。

○中村学校教育課長 教育長は、インクルーシブ教育と先ほど言わされましたけども、その基本的考え方は白山市にも以前からあったと思います。医療的ケアも含めて障害者を受け入れることは、白山市は石川県内でも先進的かと思います。次年度については、先ほども触れていただきましたが、特別支援教育サポーター派遣事業として、修学旅行に参加する身体に障害がある生徒へ配慮したいと考えています。そういう生徒の安全を第一に考えていかなければなりません。市として、少しでも援助ができないかと要望させていただきました。

○市長 もう一つは、公民館です。生涯学習の部分は市長部局がいいのか教育委員会がいいのかという議論があって、今は教育委員会でやっています。それを今後とも教育委員会でやるのか、もう少し全体として考えていくのかを議論をしないといけないと思っています。どちらがいいかと言うのも変だけれども、幅広く考えるとやはり幅広くなると思う。

○橋本教育長職務代理 私自身のこれまでの経験から考えると、生涯学習の部分は教育委員会の中で統括的に進めていくのがより妥当な感じがするのですが・・・。市長部局で

やっているところも聞きますので、今後勉強していきたいと思います。

○市長 あまりこだわってもダメかとも思う。公民館で地域づくりとなるとまた違ってくると思う。進む方向性で違ってくる。

○松井教育長 そうです。

○川上委員 学力向上やいじめ防止については、保護者との連携が大切だと思います。全国的に学力の高い秋田県や福井県は、三世代同居の家族が多く、家庭力が学力向上につながっていると聞きます。いじめ防止対策推進法では、第9条に、「保護者の責務等」が明示され、「いじめ問題は保護者にも責任がある。」と謳っています。今後、学力向上やいじめ防止は、学校と保護者（家庭）やPTAの連携をいかに強化していくのかがポイントだと感じています。それぞれが、役割と責任をしっかり果たしていかないと学力向上もいじめ防止もうまくいかないのではないかと思います。

○橋本教育長職務代理 文化会館の設計委託が挙げられていますが、水洞委員が先ほど話しましたとおり、福岡市の子ども総合相談センターへ県外視察をした時に、大変すばらしい施設だと感じました。福岡市と本市では人口規模も違い比較することも問題かと思いますが、文化会館の5階に教育センターがあり、不適応教室があります。そこには職員の部屋と子ども達が活動できるスペースがあります。福岡市の子ども総合相談センターを見てきましたが、本当に職員の数も多いし、施設も大変充実していると感じました。白山市の実情に応じたかたちで、財政事情もありますので、文化会館の改修の中でどこかの階に不適応教室を設け、今よりも倍のスペースにできないものか。来年度、青少年育成センターも統合するそうですが、文化会館の中に入るのかわかりませんが、もしそうだとすれば、現在の文化会館にある教育センターのスペースを少なくとも倍にするか、どこか1フロアを教育関係の施設に設置できないものか。今後増加することが予想されるいじめ問題や子ども相談、不適応相談等、いろいろな相談活動に効果的に対応できるのではないかでしょうか。市の実情に応じたかたちでご検討できないかと思います。

○市長 まだまだいろいろなご意見があろうかと思いますが、予定された時間となりました。皆様方の貴重なご意見ありがとうございました。また次年度にも総合教育会議があります。いろいろな意味で継続の問題、新しい問題、課題がありますので、しっかりと人づくりのために皆様方と議論をして参りたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

閉会 午後4時00分